



安住寺だより

# 禅の心

第 159 号

平成 29 年 お盆号

発行 安住寺 (年 4 回発行)

臨濟宗南禅寺派

大分県杵築市大字南杵築 379

〒873-0002 TEL 0978-62-2680

URL <http://www.anjuji.net>

編集 2.3 頁 矢野明玄

1.4 頁 矢野玄徳

## 今年の 棚経日程 です

八 月	8 日	火	祇園、札ノ辻、煙硝倉、下原、古野、西上、
	9 日	水	北台、迫上、迫下、桃山、日出町全域
	10 日	木	宗近、中平、本庄、守末、鴨川、別府市
	11 日	金	守江、片野、三川、馬場尾、中ノ原、安心院
	12 日	土	西新町、弓町、天満、須賀、新興、茅場、 安岐町、国東町
	13 日	日	魚町、本町、谷町、広小路、城鼻、錦城、北浜、 下下司、永代橋、西大内山浜
	14 日	月	南台、錦江、杉山、西大内山下、西大内山上 中尾、本村、丸尾
	15 日	火	菊本、東大内山下中、東大内山上、大分市

総責任役員 一川浩  
 責任役員 上野明徳  
 住職 矢野明玄

平成二十九年 盛夏

### 暑中お見舞い 申し上げます

今年の棚経日程は、上記のとおりです。初盆供養や仏事もありますので、時間のお約束はできません。もし、ご不在とかでご都合の悪い時は、お早めにご連絡下さい。出来る範囲で調整いたします。詳細は、8月3日の施食会の日にお知らせします。ゴチ文字地区は、小僧がお参りする予定です。

安住寺庭園の水蓮



### 世は無常

とは申せ、余りにも悲惨です。

少雨で一部の地域では、田植えが出来るか心配していたのに、一転して豪雨災害に見舞われました。正に山津波のよう、樹木ごと山が崩落し、多くの家屋を飲み込みました。やつと定着した稲も流され、多くの田畑が流木と土砂に埋もれてしまいました。

朝倉市と日田市では、七月十四日現在三十二名の方が亡くなり十四名の行

方が分かりません。朝倉市黒川では、お産で里帰りをして江藤由香理さんが幼い男の子を抱いたまま母親と共に亡くなりました。お腹の子は、八月が予定日で「神も仏もないのか」と、様子を見ていた人々は、ハンカチで目を覆っていたそうです。

間もなくお盆を迎えますが、被災者は、お盆どころか先の見えな苦しみの日々を送ることになります。

謹んで豪雨災害のお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧と被災された方々 対応に努力されておられる皆様のご健康をお祈り申し上げます

### 施食会 (おせがき)

八月三日 (木) 八時より法要

おとき 九時と十一時半より

お参りの方は、おときの時間を決めてお知らせ下さい。(地区世話人経由)

### 護持会費と墓地管理料のお願い

七、八月は護持会費と墓地管理料の納付時期となっております。何卒よろしくお願い致します。

# 「もうじきお盆ですが・・・」

地震、津波、豪雨等、各地で災害復旧が進められている中、この七月初旬、台風三号後の豪雨で、北部九州、特に福岡県朝倉市、大分県日田市で大変な被害となりました。

お亡くなりになった方々、被害にあわれ現在も避難されている方々へ、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

お寺の方へも遠方からご心配のお電話を頂きまして、ありがとうございます。ございました。

「コンコンチキチン、コンチキチン」もうじき天神祭りを迎えます。



だんじりの囃子に、屋台が並ぶ光景に心弾ませる子供の顔は見ているこちらにも楽しませてくれる。

楽しいお祭りではあるが、何年も前からお囃子を演奏や、だんじりの引手など、お祭りに欠かせない子供たちが足りないと聞いている。地区外の子供たちの加勢や、お祭りの期間だけ、夏休みを利用して里帰りしている街中の子供たちもいるようです。

私は昭和四十九年生まれ。団塊世代の子供で、第二次ベビーブームの世代です。

私たちの子供世代である、第三次ベビーブームの子供たちが地元のお祭りを支えていていいようであるが、そうはいっていないようである。そう言えば地元に残っている同世代家庭も少ない。

お祭りにしろ、伝統や文化は、先人たちから順送りに伝えられるものである。家族制度の崩壊で、家督を継ぐ、墓を守る、といったことも受け継がれていくことが難しい時代となりました。

現在の少子化、第三次ベビーブームが来なかったことで、今後ますます思いもしなかったことで、行き詰ることがないかと心配である。

少子化や労働力不足など社会情勢からか、人工知能やロボットの研究は日々進んでいるという。そんなAI時代を前に、2020年から小学校でプログラミング教育が必須となる。これからの子供たちは小さいころから益々学ぶ内容が多い上に、私たち第二次ベビーブーム世代の老後の支えとなってもらう訳で、可愛そうにも思えてしまう。

## 「子を養いてまさに 父母の恩を知る」

中国『明心宝鑑』の言葉ですが、日本でも「子をもって知る親の恩」といいます。

とは言え、父母の言葉が終わらぬ前に「お父さんやお母さんの言いたいことぐらい、わかっているよ！」と反発した経験がどなたにもあることでしょう。

「親の心ぐらいわかっている」本当でしょうか。

浄土真宗の蓮如上人の言葉に、心得たと思うは心得ぬなり、心得ぬと

思うは心得たるなり、とあります。本心に心得たとき、言葉ではなく感謝の心をもって、親の思い、親の苦勞が身に染み入ってくるのでは

ないでしょうか。

さて、八月三日は『施食会』八日からは檀家の皆様のお宅を柵経でお参りいたします。

そのお勤めには必ず『開甘露門』を、お唱えします。その一節で、

以此修行衆善根(いーすーしゅーあんしゅーぜんげん)  
報答父母劬勞徳(ほうたーぶーもーきーろーうてー)

此の修行衆の善根を以て、父母の苦勞の徳に報い答えん。

このようにお唱えしております。



一昨年の施食会お齋の様子

亡き父母、ご先祖から頂いた、ご遺志とご恩を思い出していただき、今年も新たな気持ちで、お盆をお迎えいただきたいと思えます。

明玄合掌



# 「境内塀の工事」

山門をくぐって左手側、下の長昌寺さんとの境となるブロック塀が、今年初めの強風のため一部倒壊した。

閑栖和尚に聞くと、閑栖が小僧に来た時にはあったということですから、昭和三十年代に出来たもので、ブロックの中には鉄筋も入っていませんでした。



下のお寺さんや、子供たちが遊んでいるときに崩れ、怪我人が出ずに幸いだと思っています。

これに伴いまして、七月初旬より山門入り口から六地藏横の井戸端までの塀改修工事、並びに墓地内水汲み場を現在より使いやすく新設する工事を致します。

お寺のお参りの際には、ご迷惑をお掛けすることと思いますがご理解ご了承ください。

# 「怒りは身を滅ぼす」

仏教では、怒りのことを瞋意(しんに)といい、貪り、愚かさと同並び三毒と言いい、身を滅ぼす煩惱とされる。

東大卒で元厚生官僚のエリート衆議院議員が、秘書に暴言暴行を加えたことが、メディアに取り上げられ話題となったことは記憶に新しい。

報道されて以来、この議員は入院し公の場で説明謝罪はされていない。身から出た錆かもしれないが自ら身を亡ぼす結果となった。最近では幼稚園などでも、この議員の暴言の真似が流行っているとも聞く。

怒らないことによって、怒りに打ち勝て  
善いことによって、悪に打ち勝て  
分かち合うことによって、物惜しみに打ち勝て

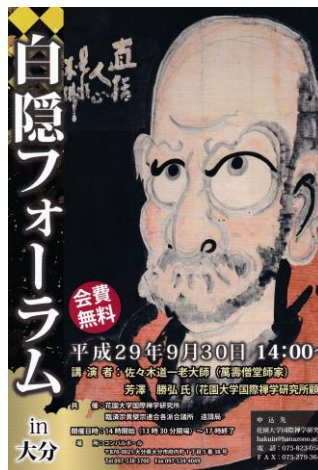
真実によって、虚言の人に打ち勝て  
『法句経』一三三の言葉である。

また、「怨親不二」の教えもある。怒りや怨みを、相手に返そうとするのではなく、柔和な心でやんわりと受け止め、あの時の怒り怨みの気持ち

が、成長の糧になったと思いきやせよるような、感謝とおかげさまの境地にする。これが怨親不二、怨親平等の教えです。

『法句経』の言葉とともに、味わっていたら、かの政治家のようにならぬように思うところです。

## 『白隠フォーラム』大分開催



平成二十九年九月三十日

午後二時開会

《講演者》

佐々木道一老大師

(萬壽僧堂師家)

芳澤 勝弘氏

(花園大学国際禅学研究所顧問)

会場：大分市コンパルホール  
会費：無料

お問い合わせ

花園大学国際禅学研究所

TEL 075-823-0585

お気軽にご参加ください。

# 《日々是好日》

●四月八日、杵築市仏教会「花まつり講演会」於城下町会館●四月十四日、次男三男がこの春より幼稚園に入園。長男長女と仲良く毎朝通学しています。●四月二十三・二十四日、無事説教会を終えることができました。

●四月三十日、寺町の長昌寺様の晋山式に随喜しました。●五月二十八日には、総代世話人会がおこなわれ、決算等のご報告をさせて頂きました。日頃の御法愛に心より感謝いたします。●七月三日、「社会を明るくする運動」の協賛托鉢。三十度を超える中となりました。●今年の棚経も長男・長女がまわります。長男は一人でのお参りになります。慣れませんので宜しく願います。詳しい日程は、施食会の際にお知らせ致します。●七月十三日、突然子供を通う幼稚園から電話。三男・玄朗が遊具から落ちて腕を強打。どうも腕の様子がおかしいので、と即整形外科へ。橈骨・尺骨ともに骨折。これから一月以上、利き手の右手が使えなくなつた三男のため皆で協力です。●坐禅会・写経会等、お寺の行事に積極的にご参加頂きますようお願いいたします。



「芙蓉」 広石碩田先生筆



# 終すまのか栖か考

閑栖記

## 今年 初盆会 を迎える方々

俗名	享年	住所
中村 享様	88歳	北九州市
木付千恵子様	88歳	日出町
菊池 純子様	73歳	東下司
一尾 エミ子様	78歳	日出町
麻植 ヨネ子様	87歳	西新町
清原 八千代様	92歳	日出町
田 泓 榮 一様	81歳	永代橋
藤原 花子様	81歳	西大内山
江藤 勝 司様	94歳	東大内山
上村 次 雄様	82歳	上尾市
是久 義 文様	92歳	杉 山
岩田 秀 子様	91歳	弓 町
麻生 亘 様	91歳	藤ノ川
河野 晃 様	90歳	西新町
岩本 ヒデ子様	88歳	稲城市
近藤 カメコ様	95歳	北九州市
得能 ヨシ子様	88歳	天 満
土谷 政 子様	86歳	牛久市
清末 和 美様	67歳	宮崎市
高橋 マサエ様	96歳	西下司
高橋 麗 子様	65歳	西下司
中村 千恵子様	87歳	下 原
是久 幸 彦様	83歳	西下司
井上 フサ子様	95歳	西大内山
清末 トシ子様	85歳	西大内山
上園 多嘉子様	87歳	東大内山
古田 カヨ子様	88歳	西大内山
松江 テル 様	80歳	宗 近
渡邊 サツキ様	71歳	札ノ辻

上記の方々が本年初盆を迎えます。檀信徒の皆様と共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(施設等に入所された方は、前に住んで居られた住所を掲載しています)

当寺では、独り身や後継者のいない家のために「永代供養塔」を建立したのが平成十年でした。予測通りの利用者が有り、各地に同様の施設ができた。

その後、意外と増えているのが「墓じまい」です。墓地を管理している立場からすると『無縁墓』にならないだけで有難い傾向かなと思う。一方、従来型の石碑を建てない樹木葬とかも希望が有るとか。他方、気になることがある。後継者が居るのに夫婦だけの墓とか、夫の家の墓に入りたくないの、で妻だけ別に墓を求める

希望もある？と聞く。安住寺が寺町に再興されたのが寛文年間（一六六〇年代）で、割と合祀された墓碑が多い。土葬か火葬かは明確ではないが、家名ではなく個人または夫婦・親子の墓が多い。それが近代になつて火葬が定着し、個々の墓でなく「〇〇家代々之墓」を建て、古い墓を整理した。その「代々」がいつの間にか消え、継承者に負担を掛けないとかの理由で「個人の墓」へと変遷しつつある。

大阪に一心寺という骨



一心寺の骨仏

仏で有名な浄土宗の寺があります。預けられた遺骨で仏像を造りお堂に安置しています。

明治二十年に初像が祀られ、その後十年毎に沢山のご遺骨でお姿が造られています。この七月一日に十四体目の骨仏像が安置されました。お預けされた方は、墓を造らず寺（墓）参りをされています。これも一つの終のすみかです。さて、この後お墓は、どう変化していくのでしょうか？

### 行事の予定

八月の定例行事はお休み  
九月二十日 敬老会

早朝坐禅
9月9日
9月23日
写経会
9月22日
ご詠歌
9月7日
9月16日